



平沢勝栄先生

衆議院議員・前復興大臣、現自
民党国際局長

岐阜県出身。東京大学法学部卒業後、警察庁に入庁。米デューク大学大学院修士課程修了。

後藤田正晴内閣官房長官秘書官、防衛庁官房審議官等を経て退官。

平成8年の総選挙で初当選。以来9回当選。防衛政務官、総務政務官、自民党政調会長代理、内閣府副大臣等を歴任。憲法、安全保障、治安問題に精通し、歯切れのよい弁舌で知られる。

ご紹介いただきました、衆議院議員の平沢勝栄でございます。大臣在任中、うかがえなかったので、久しぶりにこの会合に出させていただきます。

コロナの方はやや落ち着きを見せつつありますが、もう1つ、ウクライナの問題。2月24日に、ロシアが突然ウクライナに侵攻しまして、そしてそのあとは皆さんご案内のとおりです。毎日毎日戦況がテレビで報告されております。日本の国民だけじゃなくて、世界中の国民がこれはけしからん、なんでロシアはこんな指弾されるようなことをやったんだろうと。ほんとに不思議でしょうがない。その理由は2つあると思います。1つは、ロシアはウクライナにこれはやっても絶対に負けることはないと考えていた。もう軍事力をみれば明らかですから。こんなものは一日で、いや半日で片付くとロシアは思ったんじゃないですか。

ちなみにガルージン駐日ロシア大使はよく自民党本部に来てまして、私もよく話をしたことがありますが、大使も含めてプーチン自身もこの戦いはす

ぐ勝つと考えていたことは間違いないと思う。そしてもう一つ。ロシアの後ろを押ししたのは、アメリカは絶対にウクライナでの戦争に参加しないと。言った。言わなきゃいいのに何回も言ってるんです。なんでこんな余計なことを言うんだらう？黙ってればいいわけで。ですからアメリカは入ってこないっていうことになると、ウクライナと一緒に戦う国はどこがあるんですか。ないわけですよ。ウクライナの今持つてる軍事力と、それからロシアの軍事力を比べれば、もうちょっとロシアの軍事力の一部を持ってくれば、すぐ片付くと思ったんでしょう。

先週、駐日ウクライナ大使と会った時に言っていました。われわれは絶対に負けない、最後まで戦う、とこう言っていましたから、これはちょっと長引くかもしれません。

それはさておき、今回のロシアによるウクライナ侵攻から、われわれ日本人は、学ばなければならないことが多々あります。

今の日本国憲法の前文には、なんて書いてある？
「平和を愛する諸国民の公正と信義に信頼してわれわれの安全と生存を保持する決意をした」と書いてあるんです。この憲法持っていれば絶対に戦争は起こらないと。だってそうでしょう。「諸国民の公正と信義に信頼して、われわれを守る」って書いてあるわけだ。日本が接してるのはどこの国ですか。ウクライナと同じロシアに囲まれてます。また北朝鮮に囲まれてます。中国にも囲まれてます。これらの国といざこざがあっても仲良くして付き合っていけば、絶対に今度のウクライナみたいなことはない、と断言できる人は、誰がいるんですか。日本国憲法の前文に書いてあること、私は、これは極めておかしい、完全な間違いであると思いますよ。ロシアは日本と領土問題、抱えてます。そしていつ何時、今度のウクライナみたいなことをしないと限らない。実際、ロシア人に会うと、北海道はロシア領土、ロシアの一部だと発言する人が結構いるんです。それはロシアばかりではない。北朝鮮は拉致やってるから、もうこれはもう論外です。そして中国だってね、これはわかりませんよ。中国は国際法なんて無視して、それで東シナ海、南シナ海に進出してきている。中国が尖閣をいつ実力で自分のものとしなくても限りません。

その時に日本はどうするんですか。日本もそうのんきなことを言っておられません。あるとき、私は、中国によるシンポジウムに出たんです。そしたら、中国の答えはなんだと思いますか。「国際法を守る必要がない」とはっきり言ったんですよ。「なぜならば、今ある国際法は中国に力がなかった時に力のある強い国が勝手に作った。中国に発言権がないときに一部の国が勝手に作ったのが、今の国際法。

そんな国際法は守る必要はない。今から中国参加でこれから作る国際法なら守ります。中国は発言権も出てきた、力も出てきた、ほんとうに対等に、皆さん方と話ができるようになった。だからこれからできる国際法には従いますが、これまででできた国際法には私たちは従うつもりはありません」というのです。こんなことをいっている中国相手にこれからどうやっていくんですか。私はこれからは大変だと思います。

あとは、その他考えてもらいたいのは、今回の件でつくづくと思ったけど、一番心配なのは、尖閣に中国が来た時。あわててアメリカに電話して、今中国が来たからすぐ助けて下さい。しかし、日本が戦わなければ、アメリカが助けるわけがないじゃないですか。今度のウクライナで世界中が応援してるのは、ウクライナが必死になって戦っています。日本で何かあったときにすぐにアメリカに頼ってちゃダメ。やっぱり日本が、まずは自分で一生懸命戦って、その結果として非常に厳しいから助けてくれ、と言った時にアメリカははじめて駆けつけるでしょう。

もう一つ、皆さんも気づいたでしょうか。ウクライナでは、シェルターというか地下室とか、いっぱいあることです。日本で地下室・シェルター持っている家、何軒ありますか、日本じゃほとんどありません。ウクライナではシェルターがちゃんとあるわけです。ああいったことも、やっぱり我々からすれば大いに参考になる。

時間がすでにきているようなので終わります。また機会があったらしゃべる時間下さい。よろしくお願いします。御清聴ありがとうございました。

(拍手)